

## 卒業生・修了生へのメッセージ

みなさん、ご卒業・ご修了おめでとうございます。

3月11日、M9.0という世界でもまれに見る大地震がおこりました。そのもたらした津波により、岩手県・宮城県を中心にして多数の犠牲者の方が出、また多くの家屋が失われました。被災された皆様に先ず心よりお見舞いを申し上げ、また被害を受けられた方々が一日も早く通常の生活に戻られますことをお祈り申し上げます。

私ども文学部・文学研究科においては、現在のところ（3月22日）幸いにも教職員全員、そして93%の学生・院生の安否が確認されております。今後、犠牲者の出ないことを心より願っているところです。

この大震災の余波は卒業生・修了生のみなさんにも及びました。東北大学学位授与式、文学部・文学研究科卒業・修了記念祝賀会を中止せざるを得なくなったのです。そのため、わたくしはみなさんに直接お祝いのご挨拶を述べる機会を失うこととなりました。そこでやむをえず、文書によりみなさんをおくることが述べさせていただくことといたしました。

大学卒業がみなさんの一生にとって大きな節目であり、それが慶ばしいものであるのは疑いがないのですが、一方でこれからみなさんが社会人としての第一歩を歩み出そうとする現今の社会、経済状況には極めて厳しいものがあります。3年前の秋、アメリカに端を発した国際的な金融危機は、百年に一度のものとして評されるほどに深刻なものでした。中国など一部の国を除き、日本を含む各国の経済状況はいまなお依然として低空飛行を続けています。今年の新成人に対するあるアンケートでは、親の世代より生活は悪化すると考える人が45%、今の日本で大人になるのはリスクがあると考える人が46%にもものぼるとの報道がなされました。それに加えて、今回日本を襲った東北関東大震災です。日本の立ち直りへの道がますます厳しくなったことは疑いありません。学生の身分を脱し、このような社会へ足を踏み入れることに不安を抱かれている方も少なくないと思います。

平成22年度が終わろうとするときに大変なことが起こってしまいましたが、今年度には喜ばしいニュースもありました。鈴木章、根岸英一の両氏がノーベル化学賞を受賞されたことです。暗いニュースの多い中、久しぶりの快挙と言っていいと思います。お二人は報道陣に対して、繰り返し繰り返し喜びの言葉を述べられましたが、これまでの研究を振り返ってのお話しの中に共通するもののあることに気がつきました。それは理科と文科という違いを越えた、さらには研究生活という限られた枠の中でのみ共有されるものでもなく、人間の生き方そのものにも関わる言葉だとわたくしには思われました。いまそれをご紹介して、新たな一歩を踏み出すみなさんへのはなむけの言葉としたいと思います。

鈴木先生は次のように話されました。発見というのはなかなか見つからない。しかし、見つかる時は割と簡単に見つかるものだ。ただし、一生懸命やっていないとそれは見つからない。根岸先生の言葉。地道に研究していれば、結果はついてくるものだ。やってみてだめかどうかは運であるが、失敗して次の手を打てるかどうかは運ではない。運は自分で呼び込むものです。

新しい環境でのみなさんの健闘を心より祈ります。

平成23年3月25日

東北大学大学院文学研究科長・文学部長  
花登正宏